

県指定史跡 岩屋城跡

津山市 岩屋城を守る会

津山市から出雲街道を西に進むこと車で 20 分、市の西の端、中北上に岩谷と言う集落があります。この集落の北方に険しい斜面に囲まれ独立した標高 282.7m の岩屋山があり、その山頂に岩屋城があります。1441 年に起きた嘉吉の乱により故あって山名氏の武将山名教清が守護職に任ぜられ自分の本城として築いたのが始まりでおよそ 570 年昔であります。以来山名、赤松、浦上、尼子、毛利、宇喜多と多くの武将により激しい城の争奪がくり広げられました。この様な城主の移り変わりのあった山城は美作国では類を見ないところがあります。眼下には東西に走る出雲街道を見、眺望はすばらしく、山頂には豊富な飲料水が湧き出ています。更に三方は谷と山で囲まれ、中でも北側は雄大な天然の要害をもつ難攻不落の山城とうたわれている。城の遺構も良好に保存され訪れる人には当時に偲ばせてくれます。嘉吉元年から天正 18 年 8 月廃城となるまでの 149 年にわたり激しい攻防が繰り返され数多くのドラマを生んだ歴史ある山城です。貴重な文化財として大切にされている一方関心も強く地域づくり人づくりにと史跡活用が生かされ多くの方に大切に保存されています。本城は岩屋山の山頂に本丸を設け、これを中心として連続する尾根を利用して曲輪、二の丸、三の丸、馬場、西方には小分城を南側には三つの大きな砦を設け、それぞれ大小の堀切により防御手段がとられています。城の形式としては梯郭式と言われています。東斜面には十二本の畝状の堅堀があり防御施設がはっきりと残されています。その他に飲料水井戸、土塁、堀切、大手門、水門。虎口。更に戦勝を願って伯耆国より龍神を勧請している龍神の池が地元の方々により大切に保存されています。

慈悲門寺跡

ふもとの駐車場より少し歩き長い石段を登ると右手慈悲門寺跡に着きます。

平安時代に円珍和尚により開基された天台宗の寺で築城より 500 年以前からありました。永年の歴史あるこの寺も戦いに巻き込まれ城と運命を共にし、岩屋城の歴史と時を同じくして廃寺となっています。今も寺跡には各所に大きな石が点在し基礎石と考えられ瓦、かめの破片が多く見られます。

山王宮と拝殿跡

慈悲門寺跡を 250m 位登った所に山王宮拝殿跡があります。五合目あたりでしょう。建物は見られませんが 3m 四方の拝殿跡があります。そこから 130m 程北前方に洞窟が見え二基の祠がまつられています。慈悲門寺の鎮守の神で近江の日吉神社よりの勧請した山王大権現が祀られています。全国より霊場巡りをする行者、修験道、山伏がおとずれ岩頭に伏して念仏の行をする行場霊地でありました。

大手門・水門・水神様（龍神池）

山王宮を後にして九十九折を登ると大手門・水門の跡につきます。七合目あたりです。平成 16 年台風により杉の大木が根元から倒れ石垣がくずれ今は標柱のみで当時の姿を

見ることはできません。一帯は湿田となっていて貯水を兼ねて防御用に利用されていたものと考えられます。少し登った所が龍神池と拝殿跡です。一息し記帳を済ませ潤れた事のない龍神池をながめるのも楽しいものでしょう。この池には山名教清が築城にあたり本拠地である伯耆の国赤松池より龍神を勧請し戦勝を願って城の鎮守としました。水源が強いので雨乞の神として地元の方々は大切にしています。

馬場跡

城郭の中では最大の規模をもつ東西 108m 巾 20m 余りの平坦な砦跡です。この馬場跡は眺望が大変良く、又多くの兵を集め、軍事の策略を命令し伝達に使われていたところでした。

飲料水用井戸

龍神池をあとにし少し登った所、左手に石組みされた正方形の井戸があります。きれいに澄んでいて当時はこの井戸水は生活用水に使用されていた事でしょう。一度も潤れた事のない井戸と言われています。訪れる方はこの井戸水を口にし、次の目的地に進む息継ぎの井戸でもあります。

本丸跡

岩屋山では一番高い所で標高 482.7m、城内全域の城郭が一望できます。東西 60m 巾 20m、北側には「落し雪隠」と呼ばれる垂直に近い断崖を有し天険の要塞で守られています。まさに難攻不落と呼ばれる險塞な本丸と言えましょう。

二の丸・三の丸

二の丸は本丸と堀切をもって分かれており東方の防備役を重要視されています。三の丸は谷を隔てて東南に三段の砦を有し 90m・巾 8m 余りの独立した平坦地に設けられています。眺望はよく東南の防備には欠かせない場所です。さらにこれからの郭が所在する尾根から分かれての小規模な郭、石橋上砦、椿ヶ峪砦、小分城が南西に置かれ、すべて堀切を設けて防衛手段がとられています。

難攻不落と呼ばれる岩屋城も幾多の苦難に耐え戦場と化した事でありましょう。戦いに明け暮れた数知れない武将に対し地元では供養祭を催しています。

この様な事を思い、いつまでも大切に保存、管理は続けて参りたいと考えています。けわしい山に囲まれた岩屋城も戦略上必要な岩屋山であったのか攻防が繰広げられたものの天正 18 年、149 年の歴史をもって廃城となり再び姿を見る事はありませんでした。

兵どもが夢のあと

登って見ませんか岩屋城